版權所有

一冊五錢

各土曜日出版

當府内無郵税

明治廿一年 (第百四拾壹號) 十二月廿二日發

社説 將來の日本人民（第五）女子教育

論説 飲食物の談附酒と煙草の事（津田仙）○流外於藻（婚姻の外に教育さる可からず其二）甲部武治

批評 婚姻事情○女子教育論○樂器妙音の新考○文覺上人勸進帳を讀む（三）

叢話 パーンス天之一方の詩○動かす可らざる處ろ○島田三郎君の通信○女學古文○萬國赤十字社大會の感（三）女子看護法の心得（津田梅子）

小説 哲女の巻

佳傳 法學大家アウステン氏夫人

寄書

新報

外報

小供談

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 141. DECEMBER 22ND, 1888.

EDITORIAL:— The Future Japanese Nation (Woman's Education).

LEADING ARTICLES:—Food and Drink. (Tobacco and Alcohol). by Mr. S. Tsuda. Pickings While at Abroard. by Mr. T. Tamura.

CRITICAL NOTES:— "On Marriage." "Female Education." "Mongaku Shonin's Kanjinchiyo." "A new Idea to Improve Musical Instruments."

MISCELLANIES:—"Christianity in Girls Schools." "A Letter from Mr. Shimada." "Woman's Classics." "At the Great Conference of the Red Cross-Society (Dr. T. Isiguro)." "Hints about Nursing (Miss. M. Tsuda)."

NOVELS:— Tetsujo no Maki.

BIOGRAPHIES:— Mrs. Sarah Austin.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

通信女學の廣告

通信女學　第拾五卷　發兌

蓋し最良の教科書

婦人會員の會讀及び內の獨習に適せり

去月廿九日出版せり

一冊枚數七十頁　定價廿錢全國無郵稅

京濱間女學校職員表　（廿一年十一月調）（其二）

○明治女學校　（飯田町三丁目）

設立　明治十八年八月　生徒現數　二一〇人

校長教頭　木村熊二、嚴本善治　議員　島田三郎、田口卯吉

教員　嚴本善治○ハリス夫人○ハリス氏○ライト孃○カヂ夫人○青木まさ○服部千代○伊勢たま○植村すゞ野○齋藤とめ○渡邊こう○神中いさ○小林ゐい○富益みつ○高橋善作○木村祐吉○鈴木弘恭○八木兼辰○永田恒三郎○（取締）吳くみ、石川ろく○（校醫）荻野ぎん、小池義次

○頌榮女學校　（芝區白金猿町）

設立　明治十九年六月廿六日　生徒現數　四〇人

校長　岡見清致　役員　仙波なを

教員　ミス、ウエスト○ミス、ケース○近藤るい○加納けい○松村れい○鈴木弘恭○木村熊二○近藤忠恕○隈崎叶

○櫻井女學校　（麴町區中六番町）

設立　明治九年十月　生徒現數　三二五人

校長　櫻井ちか代理矢島かち　役員　手島荒二

教員　稲島仲○江口高簾○アリヤ、チ、ツルー○エダウロアト○アンナゲデビス○橋本はな○エリザベス、ヒ、ミリケン○龜山てい○アンニイヒ、パラ○カーリー、エッチ、ロース○カロレン、デビットソン○大野小春○長谷川きた○一柳ちか○大石むつよ○茂木けん○矢島たつ○田村こま○堤箸きん○宇佐美米○小川とく○岡田みす○小林とし○三谷氏

○駿臺英和女學校　（神田區駿河臺袋町十番地）

設立　明治十八年七月十五日　生徒現數　六六人

校長　荒井牛次郎　役員キッタ○ホワイトマン○山川珍平○早乙女きさ

教員　キッタ○ホワイトマン○クラゲット○鈴木信○多湖鍵作○早乙女きさ○芝山こう○坂口よし○町田つる○鹿島きよ○齋藤賢德

○女子神學校　（神田區駿河臺）

設立　明治十六年六月　生徒現數　四〇人

校長　佐藤秀六　役員　管野ひで

教員　男三名女四名

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第百四十一號　明治二十一年十二月廿二日發兌

社説

○將來の日本人民。

五、女子教育。

論じて此に至るときは、日本人民將來の吉凶は主として本邦婦女子が掌の中に胚胎することを知る也。若し彼等が手いよ〳〵浮薄に指ざゝば、將來の日本人は則ちいよ〳〵浮薄の地に振出さるべし、然れども若し彼等が手幸いにして嚴正に指ざゝば、將來の日本人は則はち幸わいにして嚴正の地に振出さるべし、吉凶その孰れかに振分くるの權は多く吾が女性諸君の手の中に存すと云ふべし、然らば則はち今の婦女子が覺悟の何如んなるは、乍まちにして大日本帝國の命運何如に關す、此に至りて今の女子教育に極めて重大の責任あることを見る也。

之を以て吾人は、今の女子教育の爲に祈ると甚はだ切なり、而して今の如く女子教育の頗かに盛んとあれるを見て、謝する所ろ亦甚はだ切なり、故に此際もし其の方針を誤まりたるの女子教育方あるを見るときは、吾人は啻に女性一流の爲めのみにあらず、人類一汎の進歩の爲のみにあらず、實に我が此の父母の郷興亡存廢の爲めに胸を打つて痛歎するあり。左れば世上幾多の女子教育者中、或は不幸にして其方針を誤まらるゝの人なきにあらざるべしと雖ども、吾人は固より大膽に善く其の誤まりを辨知すとは云はず、只だ衷情此國を懷ふの念に禁ずる能はずして、平素確信する所ろの女子教育案を吐露するの大膽を許せ、而して吾人が確信する所ろに反對するの教育方を見て則はち之を誤まれりとするの大膽を許せよ。カーライル曰く、明則は之のみ、各の考ある人をして其途を走らしめよ、而して其途の何處に導びくかを見よ。

當今の女子教育に三流あり、一に曰く普通技藝的教育、二に曰く高等智育的教育、三に曰く德育的教育、三流の外か尚は二三の分らざる混合教育あり、又此の三流と云ども左様に明白に判別せらるゝにあらず、然れども其の大同を團結して之を分類せば、大率ね右三種に區別するの當然なるを知る。

第一。普通技藝的教育を主張する教育者は云く、女子は後に至りて妻もしくは母となるものなり、故に其の教育は主として家政育兒の心得を教ゆるを要す、若し一家内の經濟衛生に注意するの目を明らかにし、且つ子を育てゝ之を立派に仕上

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るの心を有たば、假令ひ英學は出來ず、漢書は讀めずとも不都合なしと云ふなり」。吾人は眞に其の議論の着實なるを喜こび、平素常に之に贊成せり、然るに此の一流の通弊として、其家政と云ひ育兒と云へることを解釋するの甚だ淺薄なるは殘念に堪へざるものなり。元來家政と云へば、一家を宜しきに調理し、其のホームを美しくするの道を申すことならん、然らば、彼の裁縫洗濯料理掃除より、經濟衛生看病保護等の心得を含むは勿論なるが、其更に大切なるものとしては、彼の能く良人を助けて之を慰さめ勵ますの一事をも含まざる可らず、前の謂ふ所の惣ては蓋し機械的の家政にして、此の最後に云ふ所の一事は即はち靈魂上の家政なり、苟くも一家の調和は器械備わり料理甘くして且つ健全無病なるのみに由るにあらずと知り、若し彼靈魂上の家政にして能く調ふときは、陋巷の茅屋に不幸にして病に沈吟するの間と云へども尙ほ純樂のホームあるを得べしと知らば、即はち所云る家政なるものゝ最上の心得は只だ裁縫洗濯料理掃除經濟衛生看病保護等の心得にのみ止まらざることを知るべし。之と均しく、育兒と云へる文字の解釋せらるゝこと亦た甚だ抵し、蓋し此流敎育者の所云る育兒なるものは、先づ産前産後の注意を厚くし、其の生立ち遊戲等に相應の導きを與へ、子供をして成べく丈夫にあらしむるの方を稱することなり、吾人は固より此等の心得が育兒方中に大切の箇條たることを疑はずと雖ども、然れども所云る兒を育つるの高等なる箇條は決して只此のみにあらずとは信ぜり、何んとなれば其子の健全無病ならんことは固より最大の樂しみなりと云へども、此子必しも長じて梅が谷大達の流亞とのみ成るべきにあらず、故に更に其の智德を適當に開發するの必要あるのみならず、尙更に其の精神をも尤も高尙に開發せしめざる可らずと知らば、即はち母が其の兒を育つるの最上の心得は啻に産前産後生立ち遊戲等の心得にのみ止まらざるを知るべし。之を以て女子敎育に家政育兒の兩科を必要とするは勿論なるが故に、其の家政育兒中の尤も大切なる心得の敎育を必要とするは亦た勿論なりと知るべし、此時に當り今の此流敎育者の謂ふが如き淺薄なる家政育兒は果して何程の效能あらんや、況んや今ま將來の日本人民を何如んせんとするの問題に對するの時をや。

第二。高等智育的敎育を主張する敎育者は云く、女權の伸びざるは主もに女性の無學なるに因れり、女性と云へども若し學ばゞ豈に男性に劣る所ろあらんや、古來男子にして大學者

と爲りたるものは多くは大學校の卒業生あり、即はち大學校の教育を受けて初めて男性に其の大學者を出したるなるに、女子の教育は古來甚はだしく擯斥せられて、未だ甞て女子の大學校あらざりき、即はち之に大學の教育を與へずして而して大學者の出でざるとを責むるもの也、故に之よりしてもし女性に高等の學問を學ばしめば、彼等亦た之よりして男性に劣らざるの大學者と爲るべし、此に至りて女權初めて伸び、男女同等の地位初めて得らるべしと、如此き慷慨如此き熱心に勵まされて、高等の智育を女性に與へんと希望し、現に政治法律理化動植の高等學を教授せんとするもの、或は如此き教授を與へんと盡力する所ろのものあり」。吾人は與に其議論の活潑なるを喜び、平素多く之に贊成せり、然るに此の一流の通弊として、其の女子高等智育を解釋するの眼往々にして慷慨に失し寧ろ僻見に傾むくの誤まりあるは殘念に堪へざるもの也。凡ろ人間を高等にせんと欲せば即はち高等の教育を施さゝる可らず、女子の智性をして若し出來べき限りの高等に達せしめんと欲せば亦た其の出來べき限りに高等の智育を施さゝる可らず、之れ勿論の道理にして決して爭ふべきにあらず、然るに其所云る高等なるものに就ての解釋に至つては更らに一考すべきものあり、彼の松柏の尤も高等なるは其の幹材の丈夫なるにあり、櫻樹の尤も高等なるは其の花の爛熳たるにあるが如く、男子に就て高等と稱するの智は必らずしも女子に就て高等と云ふ可らず、故に吾人は女子の高等智育を贊成する敢て人後に立たずと云へども、所云る其の高等の智を男子の高等の智に標準して、以て此の標準に達せしむるを稱して女子の高等智育と爲すに至つては、吾人明らかに之れを不可とす、思ふに彼の政治法律理化動植の高等學の如きは、矢張り是れ女性が就て研窮すべきの學問なるべし、然れども若し夫れ男子が之を研窮するの方向に競爭して同一法に之を研窮せば、茲に男性の學生の外に別に女性の學生を得たるの利益ある可らず、即はち別言するに女學生としての研窮の效能大いに發現せざるべしと信ずる也、之を以て女子に高等の智育を與ふると固より可なり、然れども只だ男子と競爭せしめんが爲に之を與ふると云はゞ極めて不可なり、女權の伸張は女界に變性男子を製造するにあらずして寧ろ尤も正當に發達せる眞美人をして出現せしむるにある也。此時に當り今の此流教育者の謂が如き慷慨過激なる高等智育は果して何程の效能あらんや、況や今將來の日本人民を何如せんとする

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の問題に對するの時をや。

第三。德育的教育を實行する者は多くは宗教傳道を圖る所ろの女學校にあり、而して佛教に由て立られたる女學校は今年に至つて始めて大に增加したりと云へども、其の短日月は未だ其の効果を現はさしむるに至らず、故に吾人が茲に觀念する所ろのものは多くは基督教の女學校にあり、而して基督教中に於ても主もに其の新教の傳道會社に由て立られたるの女學校にある也、吾人は教育に智德躰の三育あるを知り、此の三育の鼎立して決して一を缺く可らざるを知る、然れども女性に於けるの天命は世の道德を清くするにありと信ずるが故に、尙ほ今の日本婦人の頭上に掛る最大の天命は特に此の一點に存すと信ずるが故に、今の女子教育に德育の最も切要なることを確信して狐疑せざるもの也、之を以て何如なる女學校に於ても固より多小の德育方存せざるに非るが中に、特に此德育を主とするの基督教女學校あるを見ては特に之を別にして其効德の至大なることを表白せざる可らず、吾人は其學校の教師諸君に謝す、亦此教師諸君を送り、兼て黄金と深切とを之と共に送り、遙に彼岸に立て淚を以て日本の我が姉妹を教育せられんとする英米の仁人諸君に謝す、吾人は之を謝するに於て夙に人前に立つもの也、故に亦た之に對して一言の忠告を寄するに於ては決して人后に隱るゝものにあらず。」抑そも眞正の宗教は眞正の道德なり、而て眞正の道德は人間をして尤も正當に存在せしむるの道を教ゆるもの也、故に苟くも人間をして尤も正當に存在せしめんと欲せば、先其の現在の時に正當し、其現在の居る處ろに正當し、其現在の安んずる所ろの位に正當し、而して永遠に存するの大道を履んで違はざらしめざる可からず、故に眞正の道德は、更に別言して眞正の宗教なるものは、啻に人間に安心立命の地を得せしむるのみならず、啻に其の靈魂を慰め之を永遠の天國に導くのみにあらず、現に子と爲ては能く其の親に仕へ、妻と爲ては能く其夫を助け、母と爲ては能く其の子を教へ、國民と爲ては能く其の一國に報ずるの覺悟を教へざる可らず、若し然らずして其の念佛祈禱は天の使を泣かしむるに足るも、現近の不幸なる人間に關係よく、其の唱名信仰は能く未來の福利を得るに足るも、現近直接の義務を盡すに足らずんば、此れ死せるの宗教にして生たる宗教にあらず、聖書に云く「汝曹は世の光りあり」と、光りは其のいよ〳〵近き所ろを明に照らして時に其の遠き所ろに暗らきもの也、故に基督信徒の信仰は或

は誤まつて天國永遠の理に通ぜざることもあるべしと云へども而も若し其の現實に於て其の目前に於て當に爲すべしと信ずる正當の道を行ふて良心に賞せらるれば、此れ即はち上帝の救ひを受るに足るもの也、故に云く「汝等既に目に見ゆる所ろの兄弟を愛せずして何如で見へざる所ろの神を愛せんや」と、思ふに眞正の基督信徒なるものは決して隱遁するものに非ず、所謂る兀坐十年、木食禪居して世と離るゝものにあらず、實に能く世の汚濁中に奔入し、隻手にバイブルを提げ、隻手に愛を荷うて、之が改良に死力すべきもの也。然らば則はち今の基督教女學校の女生徒たるものは、當に、、、尤も厚く我日本國の爲に憂ふるものあらざる可らず、若し吾人が信ずる如く彼の將來の日本人民の爲めに最大の責任を負ふを今の女性なりとせば、即はち此責任を尤も、、切に感悟して之が爲に泣き、祈り、奮つて水火の中に入んと決心するものは即はち此基督教女學校の女生徒ならざる可らず。而して吾人は其實際を見て尤も長大息せざる可らず、此の女生徒諸君は實に多くは日本國に冷淡なるものにあらざるなき乎、諸君は能く英語を談ぜり、諸君は能く小説を讀めり、而して諸君は能く之を我日本に實用することを得る乎、諸君は西洋人の氣風を知れり、而して之を知るほどよく能く日本人を知る乎、諸君は西洋の事情を知れり、而して之を知るほどに能く日本國を知る乎、諸君は果して日本國に娼妓あることを知る乎……好し知り玉ふらん、然らば能く之が爲に幾干の涙を灑ぎたる乎、果して幾干の決心を爲したる乎、吾人は其比較的に甚はだ淺少なるべきを知る也、此豈眞正の宗教を奉ずるものゝ覺悟ならんや。然りと云へ共、吾人は基督教女學校生徒を呼んで不德なり意氣地なしと云ふにあらず、之を他の一般の女學校に比較すれば、其の道德は固より高し、其の氣象は甚はだ隆んなり、之は吾人が斷言して確證する所ろなりと云へども、但だ吾人が言ふ所ろのものは、之を其の當に在るべきの理想よりして評下したるものあり、即はち眞正の基督信女當に在るべきの覺悟を標準として、而して今の女生徒の其大に足らざる所ろあることを直言したるもの也。嗚呼外國主義の學校が一國民の感想を失はしむるの傾向あることは人皆な之を言へり、其弊や固より除き難きの元因よりして來るの部分之れありと云へども、而も其他の多くの部分に至つては之を除くこと決て難きにあらず、基督教女學校の教師諸君にして若し省みば即はち可なり、吾人不肖と云へども異日亦た之が爲に愚考を呈せんことを期す。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

要するに、今の時に當つて尤も多く德育に任ずるは即はち基督新敎女學校なり、此の基督新敎や宗敎中の尤も開化したる尤も活潑なるものなり、而して其の千利中の一弊を存する亦た此如き者あり、然るを況んや、彼の不活潑不開化なる他の宗敎に因つて立らるゝの學校をや。」然りと雖ども、宗敎に因つて立らるゝの學校素と不可なるにあらず、吾人は不幸にして文部大臣と意見を異にし、學校德育の基礎は必らず宗敎に存すべしと確信すと雖ども、然れども今の多くの宗敎女學校の如く、女子を正當なる立派なる日本婦人と爲さずして、之を極樂の民とし、仙人とし、外國人とするの德育的敎育に至つては大ひに不賛成せざるを得ず、況んや今ま將來の日本人民を何如んせんとする問題に對するの時をや。

故に吾人は不肖を忘れて大胆に四方の女子敎育者諸君に忠告す、諸君もし女子敎育に家政育兒の道を敎ゆるとを最大必要ありとせば、願くは尤も正しく家を脩め、尤も淸く良人を助け、尤も嚴正に子を成長せしむるの家政育兒方を敎へよ。諸君もし今の女子敎育に高等智育を最大必要なりとせば、願くは女性の天質に相應する所ろに行かしめて、敢て暴りに之を慷慨競爭せしむる勿れ、寧ろ其の當に至るべきの地に至らしめ、其の當に現はすべきの德を現はさしめて、以て女性固有の天才を發達せしめよ。諸君もし德育若くは宗敎々育を最大必要なりとせば、願くは之に正確なる道德を得せしめて、以て極めて立派なる明治時代の日本婦人と爲らしめよ。要するに正當なる女子敎育は女性をして正當に發達せしむるにあり而して國民の氣風を改め之を善良に導くの任は主として婦女子の手に存すと云はゞ、之を啻に女學の上よりして論ずるのみにあらず、更らに將來の日本人民を思ふの上よりして、今の女子敎育をして正當なる方向に赴かしむるの切要至極なるを感ず。近日文部大臣奧羽六縣巡視の際に說示せられたるものゝ要領一冊を得たるに、其の中ち女子敎育に關するの一條に於て左の如き句ありし、

夫れ女子は天然の敎員として敎育上大切なる地位を占め其兒童を引受くる者なるが其之を敎育するに方りて敎育の要點なる國家の獨立と云ふとを其腦中に記臆し以て兒童を薰陶せざる可らずされば女子は常に此精神を以て女子と雖も國家の爲めには身命を捨てざる可らずとの覺悟をなし而て其引受の兒童に對しては國家の爲めには命を致たすの義心を發成せざる可らず

吾人は日本帝國文部省に於て、女子敎育に此如き意見を懷かるゝを見て、尤も賛成し感謝して止まざるもの也。

"I Confess that the Majesty of the Scriptures astonishes me, that the purity of the gospel speaks to my heart. Yea, if the life and death of Socrates are those of a philosopher; the life and death of Jesus are those of a God."

Rousseau.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

論説

左は去月三日木挽町厚生館に於て開かれたる惡風會演説會にて演述せられたるを佃與次郎氏が筆記せられたるものなり。

○飲食物の説附酒と煙草の害

津田仙述

滿場の諸君、只今星野兄より皆樣に申し上げました通り、私は今日皆樣に飲食物のことに就て、お話しをするお約束をして置きました、併し私は兩三日前より少し風邪に罹り、誠に咳が出まして昨日までは何にもせずに臥つて居りました、それで今日の仕度も昨日充分爲す積りでありましたが、生憎く此病の爲めに、其調が出來ず、今日の出席をもお斷りせねばなるまいと心配して居りました處、幸ひにも今朝より氣分も癒てお約束を果すことの出來るのは、私に取て實に幸いて御座います。

此食物の論に就て申し上げたいことハ、私が曾て處々方々旅をして、或は支那人の食物を食し、又ハ朝鮮人の食物を食して見ましたが、之れに日本人の食物を較べて見ますと、日本食の方が迥に劣て居ります、それで日本人の身體は、支那人或は朝鮮人よりも小さいのは、種々と其原因も御座いませうが、食物の劣て居ることも亦一の原因であると考へます。私共が此世に在り、此働くべき身體と云ふものは、上帝より賜りたるもので、我々は之を保護して往かなければならぬ命を受けて居ります、シテ見れば此食物と云ふものは、成るべく養ひに益あるものを食して、其身體を壯健にし、そうして眞理の爲め國の爲めに、充分に力を盡さねばならぬもので御座いませう、然るに眞正必要の食物でもない物を好んで食し、或は酒を飲み煙草を吸て居るものは之は其實食物でない、只慣習で御座います、故に食物に於ては滋養分の多いものを食して、以て其身體を保護しなければならぬ。彼の支那食の宜ひのは其調理に巧みであるので、支那の北部の人の大きなことは、世界中第一と云ふことであります、又朝鮮人の身體も大きいが、尤も或點に於ては開けない所も御座いませうが、概して見れば彼國の勞力社會下等人民の賤い食物を見ても、必ず牛の骨や或は野菜杯を澤山混ぜて「ソップ」を拵へて日常の食物として、之を啜て居ります、是等は誠に結構なる食物と考がへます、それで今日我日本の食物をして、悉く西洋食に改むることは經濟上甚だ六ヶ敷ことで御座いますけれども、尚ほ之が改良を加へて往くことが必要である。我國の昔しの人を御覽なさい、今より百年も前の人は左程の上食ではないけれども、今日の人より皆肥大て居ります、明治の人は早く腰が屈み、頬

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

はコケ、目は凹んで居ります。昔の人の大きかつたのは、其時代の人が着用した、鎧や太刀の寸法を見ても分る、其等は今日でも存して居ります、其鎧や冑を今の人が着ても合はぬ是は何う云ふものか、昔の人は大きかつたが、其後段々と小さく爲て來たに相違ない。然らば昔しの人は美食をしたかと云ふに今の人よりは却て劣る位であつたが、近世の人の如に多く精神を使はずして、能く運動をしたのです、運動は誠に能く食物を消化するものであつて、消化し難い食物でも能く消化せしめ、又澤山の分量を消化するから、縦令ひ養分の少ない物を食しても、養分の多い物と同じ効能を爲すとが出來るで御座いませう。然るに明治の世の中に在ては、種々と精神上の働きが強く爲つて來て、法律も研究せねばならず、新聞も毎日讀まずばならず、其他種々の學術を覺へねばならず、其精神を強く勞するとは昔の如くでない、彼の算術でも昔の様に僅か加減乗除位でハ中々世間が渡られぬ様に爲ました、斯の如く、種々と精神を勞するとばかり進んで來た、之に反して身躰の運動ハ段々少なくなるのですから、食物が悪いと自然身躰が弱く小さく爲ります。故に是非とも食物の改良を圖らなければならぬ、只今の若いお方と云ふものハ、身躰は小く色は青ざめて居りますが、是等は誠に國家の爲めに憂ふべきでハありませぬか、何うしても今日の食物を改良せねばならぬ、其れ故に尚ほ此婦人矯風會のお方々は殊に注意して此食物の改良を研究せねばなりませぬ。（未完）

○海外拾藻第一　　田邨武治譯

婚姻の外に教育さる可からず（其二）

蓋し斯る感念より發したる譯柄にて、少しく才能を抱く婦人ハ、自家獨立の方を得、又既に立派に生活するものは、兎角結婚を嫌ふの念を生ずるとはなれり、何とあれば、各自相應なる才學の以て社會に立つべきものを持すれば、別に衣食の助を他人に仰ぐとの必要なければなり、左れば此の自由自重自尊の精神ハ堅く其腦髓を支配すれば、天地間の時と場所は皆各自の所有物なりと認め、其樂み融々として極りなければ、儻し一生涯中志操と云ひ、才學と云ひ、以て自家の望を寄せて、愧しからぬものなき以上は、決して良人を見ざる已ならず、亦これを以て自家の不幸とも毛頭思はざるなり、以上述ぶる所の感念が漸次增進して、遂に全く婦人の本分なる內治の大務を嫌忌して顧みざるに至るとあらんには、其社會上に現出する結果は甚だ心配のともなり、既に斯る我儘勝

手なる考より、彼の醫學あり、文學なり、一科の專門を修めしものハ、其學術と結婚し、其學術を良人として獨立の地位を無上の榮譽として、生涯單身にて暮すもの多きに至れり。左れば、吾人は問はん、敎育なるものは、果して女子をして如此き結果に導くを以て、善良の目的を達せしものと云ふべき乎否、盖し女子とあれば、一切內治の責にのみ當るを以て一生の幸福を得るものと云ふ可らずして、此問に答へて、然と云はざるべからざるもの僅に一あり、亦巳を得ざるあり、然と雖も、若し單に如此き冷淡ある習を以て、女子に高等敎育を授けし結果ありと云はんには、素より其眞正なる目的を達したるものと云ふを得るあるべし。

吾人は、我合衆國中の各女學校卒業生に就て考ふるに、其身を內治に委ね、專ら愛を「ドメスチック、ライフ」即ち家事に用ゆるものハ寥々として、晨星の如きを見るとハ、獨りウバッサー大學のみならざるなり、盖し輓近の卒業生中には多少此の傾を滅せしやも計り難けれとも、之を既往に徵すれば、最も明瞭に其跡を見るべし、尤も其結婚を避くるの精神は、吾人が今論ぜし所に出づるか、又ハ他に然らしむるものある乎は、吾人の得て議り難き所なり、隨分自家の敎育と同等なる男子も多きに、何故に以前の卒業生中には、斯る誤謬の感念多かりしや、尤も高等敎育を受けし女子と雖も、盡く獨立自尊の思想に富んで、冷淡如此きの傾を生ずと云ふ可からざれバ、未だ世人の注意ハ女子敎育上の方法に及ばざるも、若し斯る感念を男子中に起さしめんにハ、世人は必ず起て高等敎育なるものゝ結果を咎めんとするや明なり。

吾人は僅に一記錄上より、論ぜしとあれば、其說の當否を證すると能はずと雖も、現時諸女學校中に、斯る傾向を生ずるとは、決して疑ふべからざるの事實なり、剩へ若き婦人にして、中には吾本分を忘れて、獨立自治の精神を誤り、兎角に家を修め兒を育するの大業を離れ、單身獨步するを以て、無上の榮譽と思ふ如きは、イトモ、人生の不幸を釀すの源にして、女子敎育上に於て、吾人の杞憂に堪へざる所なり。

批評

(86) 紳士貴婦 日耳曼國婚姻事情　中本一冊八十頁定價二十錢　發行所東京三十間堀文[illegible]堂

此書は加本隆太郎氏が譯にして、原書は敎師サビーン、ハ、バーリング、ゴールド氏の日耳曼史中より抜摘したるものと見へたり、第一章（婚姻の來歷）第二第三章（婚姻と宗敎との關係）第

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

四章（自由撰擇婚姻の形状）第五章結論の五章に分ち、日耳曼國に於ける婚姻律變遷の大躰を述べたり。

○女子教育論　文第廿一、二、三號掲載。　渡邊千代三郎氏稿。

此論は一種出色の文にして、論法精密なり。先づ女權の伸長に必しも女子の教育を必要とせざるとを説き、次に本題に入つて、第一教育の本旨は理解心と記臆力との二つを開發發育するにありと云ひ、第二女子は高尚なる科學を學修するに堪へずと云ひ、第三本邦の女子は育兒家政手工等を爲すべく文學音樂を學ぶべしと云へり。

如此き議論は西洋にも日本にも常に在る所ろにして別に新奇の説にあらずとは云へ、我國に於て斯く長く斯く細かに此類の説を述べたるは多くあらざりしとゆゑ、深く之を同氏に謝せざる可らず、故に吾人は之を謝すると共に亦た一言を寄せ、敢て此類の論者が常に陷いる所ろの誤謬を告白す、

教育は人を完全にするもの也、女性を完全にせんとせば教育せざる可らず、純全の人權も完全の人間に存すとせば全き女權は教育されたる女性に於て初めて得らるべき也、故に男性が其の得べき丈の權を受るにも亦た教育を必要とせば女性が其の當に得べき丈の權を受るに教育を必要とす。之を以て男女同等を得る爲に女性の教育を必要とせずと云ふは誤まり也、誰し女性に或る種類の教育は不必要なりと云ふとを得べし然れども斯る之に不必要なる教育は元來之に切要の教育にあらざりし誰にして即ち女性に教育を必要とせずと云ふ可きにあらず。左れば斷言すべし女性亦た教育されずんば男性と同等なる能はず。

高尚なる科學を修むる能はず然れども文學音樂は修むるを得べしと云ふ、然らば其の文學と音樂とは亦た高尚ならざるの部分を云ふ乎、若し高尚ならざる文學音樂之に適せば高尚ならざる科學は何を以て之に適せざる乎、若し文學音樂は高尚なるものを女性之を修むるを得ると云はば高尚なるの科學は何を以て之を修むるとを得ざる乎、文學も科學も其の六かしさは同じきもの也。

以上は只だ其の大畧を云ふのみ。

○樂器妙音の新考　學藝雜誌第八十六號掲載。伊藤篤太郎氏述。

ヴワイオレンの腹板には樅類の單子葉木を使ひ、側板には山毛欅の如き雙子葉木を使ふ、其理由は木理の細かきと粗きとに由つて音響の傳はり工合に規則不規則の別わるに因るが故也と云ふ説にて、別段に新考とも思はれざるが一讀して極て面白く感ぜらるゝ也、何卒如此き説明の多く出で來りて、樂器妙音の理學解の隆ならんとを望む、成程ヘルムホルツ氏の言はれたる如く、ヴワイチレンの名作は其の製造法と木材とに由るべし、而して日本を第二のクレモナとするには實に其の製造法に達するの外なし、木材が日本に有や無きやは左程の影響にはあらじと存ず、故に吾人は其の製造法に關する理學解の更に世に出んとを切望す、斯して初めてマッキニ氏の細工も出で、ペイロット女史の奏曲も出づべし。

○女學校の耶蘇教　羅馬字雜誌第四十三號掲載。矢田部良吉氏述。

女學校の事と云ふ演説筆記の中に、左の如き一節あり、

現今東京に於て善き女學校は、文部省宮内省の學校は勿論

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

宜しう御座いませうが、耶蘇教宣教師の學校中には余程善いものが有るようです。耶蘇教を我國に弘めんとならば、幼少の者より仕込が一番宜しひわけて、特に女子を幼少の時から其教へに隨がつて育つれば、之より良策はありますまい。

昔し耶蘇教辨惑を作られた外山正一氏は、女學校に耶蘇教を入れる程耶蘇教の傳道に功能あるものはないと云つて熱心に勸告せられ、又昔し洋行歸朝早々大學講義室に於て耶蘇教を罵られたる矢田部良吉氏も、同じく今は如此く述らる、耶蘇教が歡迎さるゝとと爲りたる眞先に、先づ女學校に於ての味方が此樣に殖えるは、蓋し女學の果報とでも云ふべきか。

○文覺上人勸進帳を讀む（其三）　不知菴主人

盛遠發心の塲餘り無造作に過ぎたり。渡の詞も亡妻に情なきが如き。鋒山が橋供養にも「さはあれ弓矢取る身にて。正しく敵を目前に。見つゝ其まゝ過んこと。亡妻に對し義にあらず。よりてかくこそ計らはめと。刀をぬいて盛遠が背後にまわると見へたりしが。髻ふつとかききりて袈裟が首級に供へつゝ」とあり。强ちに此古き趣向を襲ふべしと云ふにあらねど。「和殿の一命絕つに及ばぬ」と曰つて渡が己れの髻を切つて見せると。別に思入もなく直樣盛遠が「ハヽ世にありがたき貴殿の心底」と曰ふはチトあつけなくぞ思はる。鋒山本にも「左衛門を七回まで伏拜み。あはれ尊ふとの御心や。これかれ思ひめぐらすに。袈裟こそ佛の化身にて。權に此世に生れ來て。八十氏川の武士の。やたけ心を和めつゝ」とあれば、少々改竄を加へたし。シカシ淡泊に過るは改良芝居の本意なるか。（九十頁及九十一頁）

三幕目　不動明王及兩童子掛合の臺詞は居合拔の口上か。說教坊主の言草めきたり。此不動なる役は元祿の昔より芝居に入りたるものにして。大抵は餘計な臺詞を用ゐたれど。是は作者學理に暗き故にして。學識の富みある著者が襲踏するは頗る怪しむべし。バルク氏の美妙論にもある如く。凡う人をして畏敬暇栗せしむるには朦朧の二字こそ最も必要にして。所謂神聖と云ひ尊嚴と云ふも皆秘密より出るものなり。されば東洋多神教徒が神の殿堂を暗黑にするも。ドルード（高僧の稱）が薄黑き森林中に供養禮拜するも是が爲めにして。若し神佛談話を試み或ハ喜怒を表せば。其神聖尊嚴は倏忽に亡滅し。信仰恐縮の念ハ須臾に消散すべし。日本の著作家ハ顯著なる神德佛力をして愈々不可思議ならしめんが爲め。往々別界の神佛と塵世の人間とを混ずる事少なからず。一ト度ミルトン氏の失樂園の詩を讀まる者は氏が惡魔怪神妖鬼等を寫すに極めて朦朧幽玄なりし事を知るべし。著者は嘗て該撒奇談を綴玉ひしならん。シーザーの靈がブルータスに語りしは僅かに「おのれ惡人ブルータス」（Thy evile spirit Brutas）「汝とフィリッピに會せん（To tell thee thou shalt see me at Philippi）「さらばフィリッピにて」（By at Phillipi）の三句に過ぎざりしならずや是は幽鬼彼は神明の相違あれとも夢枕にたちて甞說々々ぐらぬの詞は格別。現在活眼の前に見れて、我こそは威音王佛の化身なりと臂々しき身上咄。開帳場の案內めきて。明王の有難味下落したる如き心地せらる。（百十五頁）

四幕目　仕丁花笠の掛合滑稽雅なし。奧殿庭前の塲雜力縱橫にして滯澁の味なし。壓卷。（自百十八頁至百二十二頁）爰に仕組上に就き申分あり。著者の序に「源平盛衰記をもととし」とあれど。盛衰記の本文に相違するが如し、（盛衰記手許になく參酌するを得ざれど）。勿論盛衰記に相違せりとて難ずるにあらねど。此脚本の趣向は「文覺院宣を乞はん爲め神護寺再興勸化を名として白河御所に亂入せしに。在廷の公卿は必ず他に仔細あらんと察し其縛を解きて其心腹を聞き終に院宣を與ふ」と云ふ筋なれど。サリトハ理に合はぬ咄なり。文覺が院に咫尺せんとて慮外を働きしは奇策に似たれども。若し在朝の人推察力に富まずして。其まゝ刑吏の手に渡されなば。折角の苦心も畵餠とならん。無謀とも方外とも例へ樣なし。一所不住の發心坊主と誰人も信ずべし、と思ひしにや。公朝も公朝なり。是こそ別に仔細あらんとて其縛を解き。「一時の方便と見たは僻目か」と云ふはあまりに都合よくして馬鹿々々し。「それが芝居だと辯護する人もあらふが」。當時賴政新たに破れ平家驕奢日に募り。見る目嬪ぐ奥こゝかしこに縱橫する恐ろしの世の中。若し文覺にして尋常坊主たらば――實と院宣を願ふものにあらずた――平家に心を寄するしれものたらば。禍を萬乘の至尊に及すべき種なるに。頗る輕はづみなる事と云ふべし。余の記臆する處に依れば初め文覺豆州に行脚し。賴朝の相を觀じ是に擧兵を勸め。且院宣を乞來らんと約し。其後京師に到り。外戚散位光能に賴りて院參し。天下の形勢を述べ。賴朝が是を救はんとするの志を奏し。且其將略あつて難に當るの力ある事を諭め。終に苦肉の計を廻らし。殊更に白河御所に暴れ込み。其罪を名として伊豆に流されしも實は院使と

なりて宣旨を賴朝に傳へしなり。余は元より其何れか眞なるを知らざれども。文覺が飛入も無鐵砲なり。兵衞尉が推察も神通ありと思し。孫康事といへど三歲兒ゝも分るうら事はなき樣にしたし。狂言なればとて可成は理に協ふ樣にしたいものなり。

五幕目　院宣を取出す時。「アイヤ暫くお待ち下されと老功の文覺が若輩の賴朝に注意せらるゝはチト可笑（百八十三頁）院宣は文覺讀上る方宜しかるべしと思はる。是にハ故實のあるものにや。（百八十四頁）

（末ながら書洩したれば再び擧げん。二幕目高殿寢所の塲に「我も盛遠の一字を取て盛阿彌陀佛と改むべし」とありて其まゝ三幕目に到れば。文覺と云へる法師顯れ盛阿彌陀佛は何れへか消亡たり。此事蹟は極て名高く文覺の俗名は盛遠なる事は誰しも知れど。盛阿彌陀佛と文覺との區別判然せざれば野者如き田舍者にハ物足らぬ心地ぞする）

借而此脚本を讀了れば文覺賴朝何れか主人公なるやの惑起る。一トロゝ言へば文覺の主位なる事疑なきに似たれど。文覺に必要なき宵碁羅の塲あるを見れば賴朝も主人公の資格あるが如志シカシ外題が文覺上人勸進帳なるのみか。渡邊橋以下其中央點は悉く文覺にあれば。宵碁宿の塲は蛇足なりと考ふ。宜しく割愛すべし。

以上列擧する處は僅に字句の穿鑿に過ぎず。日はゞ楊枝の先にて重箱の隅をほぢるが如く。全篇を損ずべからず。又登すべからず。更に一歩を進めて西洋のドラマと對照すれば此脚本には二大缺點あり。曰く性質を寫すゝ充分ならざりし事。曰く名文句に乏しき事是なり。請ふ簡短に說くべし。

叢話

○バーンス天之一方の詩

昔しスカットランドにロバート、バーンスと云へる詩人ありけり、手に鋤犂を執つて田地を耕やしつゝ、眼こに觸るゝ所ろの花鳥草木は皆な其の口頭に歌はれたり、而して彼が痛ましき吟詠も亦多くある中に、佳人メリーを吊らいたる天之一方の詩は特に痛ましくぞ思はる、其が一節に云く、

まばたく星は　光を減じ　あくるあしたを　祝ふらん
其日はあけて　靈の纒を　さきてうばひし　日とは爲
メリーよ馬麗　失にし影よ　君がすみかは　何處ある
今まは下天の　戀人や見る　むねをつんざく　聲や聞らん。

此の玉露の結んだる起元を尋ぬるに、盖しバーンス倘ほ年少き時、流の皷石を打つエール河の岸邊に於て、端あく彼の佳人に邂逅したるなり、時に半笑默禮し、各携ふる所ろの聖書を取かはして其が儘に相別れたり、バーンスは携さへ歸りたる聖書の第一葉に手記して、

汝ち亦吾名を指て僞りに誓ふ勿れ盖は吾は汝の主なれば也

然るに彼等は其後ち再たび會せざりき、而してメリーは忽焉として死し墓標空しくグリーンノックの墳上に立てり」。後ちバーンスは妻を娶りたるが、メリー死せるのちの三回忌に於て、此の妻其日記中に記して云く、

此日わが良人は頗かに悲歎し悄然として出でゝ小舍の内に入り慟哭せられたるが乍まち起ち上つて一詩を作らる此の詩ぞ即はちロックハートが良人の小詩中の最も美なりとするもの也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

其の一節は吾人之を前に掲げたり。

○動かす可らざる處ろ

セントペテロと云へるハ極めて熱信なる徒弟なりしが、或る時主の問に答へて吾は汝ぢを生ける神の子なりと信ずと云ひしかば、主は之を賞して吾が教會を此の磐の上に建んと喩されたり、蓋し信は猶ほ磐の如し、万籟怒濤之を動かす可きにあらざれば、終始不斷に賴むべきは即ハち此の信の一念の外になきとなり。左れバ夫婦の相賴むも、朋友の相托するも、悉とく是れ双方の信と云へるものにあるなり、若し信なくば鳴る鐘や響く鈸の如し、何如ほど耳立ちたる好言巧辭ありとも其は暫らくにして消滅すべし。此を以て女子の温柔なるは固より最上の美德ありとは云へ、亦た其の温柔なる後しろに確乎たる動かす可らざるの德を備へずんば、决して人をして安んじ賴らしむるに足らず、即ハち久しきに堪ゆるの信を受くるとを得ざる者あり、小野寺十内、夜討の後ち其妻ぇ送りたる書中に、

斯る折兼ねてお覺悟の事ありと思ハれて心安く存じ候

如此く信を受たるの妻は何如に樂しくあるらん。然るに古來女は信ずまじきものとせられ、其の言葉を聽かず、其の說を用ひざるを以て、一つの道德とし敎へられたるも殘念至極なる、彼の十内を初めとして四十七の義士は悉とく事を其妻に洩らさじと盟ひ、楠正成が其子に申し遣す條々に、万事余り毋に相談す可らずとは敎へたり。嗚呼女子よ、之よりは汝ぢが口更らに沈默とあり、汝ぢが胸更らに沈靜となり、軟綿柔温の裏深く千斤の鋼鐵を包まずんばある可らず。

○島田三郎君通信

歐米婦女子の景況一斑

當府の商法會議所頭取トリツトン氏は本業銀行家にて篤行家の聞へあり同氏の妻亦信仰篤き人にて過日植村氏と共に同氏の家に招かれ一夕種々の話に渡りし處極めて日本婦人敎育の進まんとを冀望し居りしが此人は自己の銀行の外に五ケ所の船會社商會等に關係し其繁忙を極むるも倚青年基督敎協會の支部を管督し自ら出席して青年の薰陶に盡力せり此人財務に商業に敏活あるが上に篤行あるを以て信用極めて重く國會議員に出でんとを勸むる人多しと雖も其商務を代理する人を得る迄ハ一身に諸業を兼ね難きが爲めに辭し居りしが此人の紹介にて小生も便宜を得ると少からず植村氏も小生も東洋の孤客衣食と寓居の費と車代書籍代必要の受業費を自辨するの外决

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

して餘財ある者にあらず其衣服も日本東京にて人を訪ふに用ゐ候常服に異ならず唯帽子は高き帽子にあらざれば職工に類して人を訪ふ際不敬なりと申す者あるより高帽を戴き候のみ別に飾るの餘地もなく飾るの必要もなしと存じ此儘にて過ごし居り候（米國にては小生も植村氏も低帽にて推通し候ひしが英國に參りて居るに定まり候後は高帽を用ゐるを要すると恰も日本人が紋付の羽織を着くると同く之なければ禮を缺と告られしにより初めて購ひ申し候）右の如き狀態に候へば小生も植村氏も一身は他人の力を借ざる獨立の位地に相違なしと雖も其獨立は書生の生活に相違なし例へば地方より東京に來れる書生にて學費と生活費とを自辨し得る者と同じ豫ねて承はり候に餘財なければ西域には何事も出來ず万事金の外交際を助くるの具なし西洋の文明は金光の異名なりと聞きしが小生の見る所にては是れ俗界の一部を見得たる者なりと存じ候前文トリットン氏の如きは富豪にて勢力ある人なれ共小生等の如き書生に對し交際上毫も倨傲の態を見ず（米國にてニューヨークの豪商デモレスト氏の家に招かれ候節も小生は別に其金力の人を壓するを覺へざり候此人は大出版舍の持主にて織物の出店英佛等に在り二回程ニューヨーク知事の候補に指名せられし人なり）富商中にも此の如き人あり他にも此種の人物極めて多し又基督教の社會に力ある有樣は是迄餘り外遊日本人の記述にも見へざれば小生の目擊せし一二を記し候はんに前週に當府カムデンタウンと申す所に驛遞院中の信者薫陶會ありて其通知を得候により參り候處當日は驛遞次官ブラックウード氏會頭にて其他諸氏の演說あり此會は郵便配達人を職務の餘暇に薫陶する爲めに設けし者にて次官の演說に此會は某婦人の勸告により當初十二名程にて開きしが祈願空しからず同樣の會各部に續起し今日はカナダ鐵道に廣がり數千の會員ありといへり此薫陶者は重もに良家の婦人にて身分ある者多きに居り或は講義によりて才智品行を進め或は茶菓を饗し自ら給事して其平生の勞を慰むる等其階級位置を忘れて社會に盡力すると感ずべき儀と存じ候ウードブラック氏年配五十以上其事務の繁忙にも拘はらず此の如き會に出席し世話を爲すと亦信者の人爵を忘るゝ一端を推知せられ候（未完）

○女學古文

聖書色戒

新舊兩約全書中撮要

前號に「色」と云へる一字を正解したり、凡そ今の我國に於ける如くに姦淫の空氣滿々たるは、其の元因の悲しむべきもの

甚はだ多く存するに由るとは云へども、其の尤も主もなる原因としては我道德敎の之を寬假に由ると爲さねば成らぬ。蓋し我道德敎なるものは、固より人の妻に姦するヿを禁ぜり、亦た妻が他人に姦するヿを禁ぜり、更らに亦た有婦の夫が別に第二の妻を娶るヿを禁ぜり。然るに妻と云へる名目にあらざる以上は、男子が之に合するも敢て害なしとせり、例へば妾を置くが如き、又は尤も卑しむべき妓流を弄するの類、多くは今の道德敎に於て戒しめられぬ條々たり、如此き薄弱なる敎が我國の民心を支配せん限りは、此所に極めて淸潔なる道德の行はれんとは決して望む可らず。

因て今ま姦淫を禁ずるヿの尤も嚴密なる彼の新舊兩約書中より色戒と稱すべき條目中の主もなる敎則を左に示すべし。

汝ち姦淫する勿れ　出埃及記廿章十四節

イスラエルの女子の中に娼妓ある可らずイスラエルの男子の中に男娼ある可らず娼妓の得たる價を汝の神エホバの家に携へいりて何の誓願にも用ゐる可らず是は汝の神エホバの憎み玉ふ者なればなり　申命記廿三章十七八節

娼妓の口唇は蜜を滴たらし其口は脂よりも滑らかなり左れど其終は茵蔯の如くに苦し兩刃の劍の如くに利どし其足は死に下り其步みは陰府に趣むく彼は生命の途に入らず其徑はさだかならねども自から之を知ざるなり小子等よいま我にきけ我口の言葉を棄る勿れ汝の途を彼より遠く離れしめよ其家の門に近づく勿れ恐らくは汝の榮えを他人に歸し汝の年を憐憫なきものにわたすに至らん恐らくは他人汝ちの資財によりて盈され汝の勞苦は他人の家にあらん終に至りて汝の身なんぢの軀だ亡ぶる時なんぢ泣き悲しみていはん　箴言第五章三節乃至十一節

我子よ何なれば娼妓をたのしみ淫婦の胸を懷くや　同前廿節

妓婦の口は深き坑ありエホバに憎まるゝもの之に陷らん　同前二十二章十四節

それ妓婦は深き坑の如く淫婦は狹き井の如し彼は盜賊の如く人を窺ひかつ世の人の中に悖れる者を增なり　同前廿三章廿七八節

凡そ婦を見て色情を起す者は中心すでに姦淫したる也もし右の眼汝ちを罪に陷さば抉出して之を棄よ蓋は五肢の一を失ふは全身を地獄に投入らるゝよりは勝れり　馬太傳五章二十八九節

姦淫の故ならで其妻を離緣するものは之に姦淫なさしむるなり又離緣せられたる婦を娶る者も姦淫を行ふ也　同前卅二節

爾曹の身はキリストの肢なるを知らざるか我キリストの肢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を娼妓の肢となして可らんや可らざる也娼妓に合ものは彼と一つの躰となるを知らざるか蓋二人のもの一躰となるべしと云ひ給ひたれば也主に合ものは一の靈となるなり汝曹淫を避よ人は凡て行ふ罪は身の外にあり然れど淫を行ふものは己が身を犯すなり哥林多前書第六章十五節以下

淫辟を言ふ勿れ姦淫するものはキリストと神との國を嗣とあたハず以弗所書第五章五六節

爾曹婚姻の事を凡て貴とめ又た床をも汚すこと勿れ神は苟合また姦淫するものゝ罪を定むべし希伯來書第十三章四節

○萬國赤十字社大會の感（三）　石黒忠悳述

赤十字救護隊並に獨逸母后の撰服附り日本消毒綳帶大名譽の事　第二日（九月廿三日）。此日議場が散じまするとカル、スルーエの近傍なる野に於て、カル、スルーエ有志聯合赤十字救護隊の演習が有りました、此の有志聯合赤十字救護隊と申すのは、志の厚き者のみ集つて、衛生隊を組み、軍の時、病者を救護する爲めの衛生隊でありまして、色々病人を運ぶ道具や、何かも中々澤山あつて、實に行き屆いて居る者であります。扨御婦人の事に反つて御話し致しますが、此日は、バーデン大公及妃太子ブラジル帝、其他各國の委員、我々の輩迄が、此れに臨んで觀ました事であるが、時にバーデン太公妃が日本委員に向つて仰せらるゝにハ、此救護隊人の着て居る衣物は、我母たる獨逸皇后陛下が御工夫なされて撰び玉ひたる服であると仰せが有つた、其服は、鼠色の大羅紗で、別に變りたる事も無いが、獨逸皇后陛下が之を着せよと仰せられた者と云ふ事です。其時一の立派なる貴婦人が有つて申さるゝには、私の兒供は二人とも此救護隊に這入つて居るがバーデン太公妃の御母ある獨逸皇后陛下が御工夫遊ばされたる衣物を着得らるゝと云ふは、即ち救護隊に這入つたる御蔭であると申された、一般の人が皆此の樣に熱心に王室を尊重し、赤十字に盡して居ると云ふ事の一の證據です。是れは晝の中の事で有つたが夜に成つて各國政府の委員丈けを、バーデン太公の御城内に御招き有つて、特別ある御馳走がありました。其時、バーデン太公及妃は、佛蘭西語で、各國委員の勞を謝し、其健康を祝せられました。宴終つて太公及妃は、一々各委員に御話しが有つて、其際太公妃は特に日本委員に對して仰せらるゝには、今日議場で傍聽するに、卿の國の陸軍では、數年前から消毒綳帶を改良せられたと云ふ事である、此事は、單り軍人の幸わい計りで無く、赤十字に熱心なる我

々も、共に悦ぶ所である、歐羅巴の文明を以て自ら矜る國すら、猶未だ此の準備が整ふて居らぬのに、卿の國で夙に此の事を實施して居るとは、實に歎美に耐へざる所であると、日本委員は即ち答へて申しまするに、我國の人が軍人の疵を救ふに切なる事、勿論人情の厚きに因るとは申しながら、我が　皇后陛下が兵卒を御慈しみの念厚く在します事、益す是れに熱を加へたので有ると存じます、我が　皇后陛下は屢々赤十字社に行啓有つて、之を奬勵し給ふ事で有るから、陸軍消毒繃帶の準備が速に成功致したも、又其據るところ無いではありません、ソシテ消毒繃帶の必要を感じ、是れに決定したる我國軍醫の學術は、專ら獨逸より輸入した者であるから間接には御禮を獨逸の學問社會に述ぶ可きであると答へました、併し是れは太公妃が獨逸人であるから、私も少しお世辭を申した次第であります。

獨逸皇后臨啓の事　當日は、獨逸皇后陛下が御忍びで會場に行啓せられて傍聽遊ばされました、御年は七十餘歲、四年前から御腰が立ず、一切車を用ひらるゝので、內謁をするにも食卓に就くにも、矢張車を用ひらるゝので、ベルリンよりは十餘時間の滊車に乘らなければならぬ、之を犯して、態々萬國總會の傍聽を爲さるゝと云ふ事で、赤十字に婦人が熱心して居ると云ふ事は、是を以ても分る事で有ります。

親王妃御會話御心掛の事　是は赤十字に關係は有りませんが宴會の晚に、カル親王妃が御出において、卿はモール夫婦を知ッて居るか、夫婦は貴國に聘せられたと云ふ事で有るが、此の頃は如何にして居るかと云ふの御問で有りますから、如何にも私の出發前、本邦に着して、モール氏夫婦の健康あるは見受けましたが、未だ話しを致した事は有りませんでした、就て氏を見たる事に就て御話しが有るが、我國東京慈惠病院と云ふが有て、該病院に　皇后陛下が成らせられた時、氏夫婦もこれに陪し居たれば、其の時に於て始めて氏夫婦を知ッたので有る、慈惠病院とは、云々ある組織を以て建てられたる病院で有ると申した所が、妃は曰く、卿歸朝したる後ち、彼れと語るの機會もあらば、予は彼れを思ふて居ると云ふ事を傳へて吳れと御話しが有ッた、是等は別に用も無き事で有るが、歐洲の皇族貴族等の婦人方が、人と御話しを爲さるに毎も無駄事は無い、何か手懸りを見付出して、御話しを爲さるゝので有るが、右等も話しの種子に申し出された事で有らふと存じます。(未完)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○女子看護法の心得(其六)　華族女學校教授　津田梅子

病人の食物の事　看護者が格段に注意すべきは病人の食事の模樣でございます何故なれば毎日一度位見舞に來る醫者は或る食物が病人に合ふか合はないかと云ふとなどは分りません人毎に其躰の組立は違て居りますれば一人に適する食物でも他の者に必ず適する者では無く却て毒になるかも知れません又何事にせよ醫者の言葉には必ず從て其通りせねばなりません多くの食物が有りながら之れを滋養になるやうに調へる方を知らぬところから醫者の差圖さるゝ善き食品は多けれども病人の口に合はぬやうな拵へ方をする故に據なく病人は一つとして食べる物も無き爲に餓死するやうに至ります病人の弱りたる胃にも善く適ひ消化し得べきやうに料理することは一つの學問として宜しうございます如何なる食物でも病人の望にまかせて與へるは實にあぶないことでございます母が時として愛に溺れ醫者の言葉をも用ひず小兒の云ふことに逆らふのを好まず何でも欲しがる物をたべさせる者がございますが是は刀を以て其身を切るか或は毒を飲むを見て母が夫れを構はずにおくと同じことでございます斯の如き母を賢き母又は子を愛する母と申されませうか病人は小兒の如き者にして我儘無理なる者でございます故に食物其他入用なものとても病人の氣に任せて置れません看護人は是等を見計て病人に與ふべきことでございます是は食すべき品のみで無く其分量も醫者の言付に從て病人に與へねばなりません時としては食氣の無い病人に食物を與へるには大に看護人の注意を要しますどうしても極つた入用丈の養が無ければ假令へ病氣は去るとも力は弱り壽命はなくなります日本に於て病人の食物の品數が寡ふございます外國とて一般には申されますまいが先私がある處におりまして病氣の節に致された事を考へて見まするに能く萬事行屆て居たことが分ります食物と云ひ飲物と云ひ氣を慰る言葉と云ひ其信切の取扱を以て永い間病の床に臥して居りましたるうちに受けたる看護と云ふものは言盡されぬ程よして知らぬ外國人の爲に此樣にされたるは實に忘れがたき程でございます日本に於て折節中等の人々の中にある病人の所へも參りましたる事がございまするが實に見るも哀しむ可き有樣のものがございました。(未完)

愚なる子はその父の災禍なり、妻の相爭ふは雨漏のたへぬにひとし、家と資財とは先祖より承嗣ぐもの賢き妻はエホバより賜ふものなり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小説

○哲女の卷　月の舍忍

（第九回）花散里（下）

雪の光に尚ほ明るければ未だ燈火を點せず、只だ風を防がんとて早く閉したる戸は落る雪に打れて屢ば音のふ聲をす、稀に聞く車の響きも今日は雪裏に沒して音なく、偶に會釋する隣家の老母もすでに寢たりと見へて例の濁聲を洩さず、彌よ〱靜かにしていよ〱物凄ければ、二人の令孃も亦た自づから心鬱して例の如く墓々しからず、今しも晩食を畢りて火鉢の左右に陣取りたるが、暫らく無言にして扨て一人の言ふよう、

サ、之からつくりませう、歌を。

例の名吟を……、何んと云ふ題で。

雪と云ふので。

早い方が好のよ。

よろしひ。

之よりして二人は恰かも坐禪したる如し、但

し時々は顔を見合せて莞爾と笑み、又は折節首をもたげて密と窺き込み、或る時は意氣込みて帋面をハッタと睨み、又或る時は筆を下さんとして千鈞を宙に吊るすの躰あり、斯て天地は益々沈靜にして、煩悶したる兩の心田は辛くも二首の歌を產し出せり。

出來ましたよ。

そう、やわつと、私しも。

どれ何んと云ふの。

　大空にたなびきたりしゆかりとて、
　　落ちても雪はともにつもれり。

チヤ甘いとチー、私しのは極めて淡泊ですよ、

　はじめより雲は澄みたる水なれば、
　　こうればしろし純潔の雪。

どうですか。

うまひ〱、なか〱上手ですとチー。

時にパサッと音して大ひなる響きしたり、二人は思はず耳を欹だてゝ聞くとき、

　旦那此處です。

何やらん判然せざる問答ありて、扨て暫らくして戸を叩く音あり。

ヲ頼み申す、〱

誰れでせう今ごろ‥‥イヱ私しが行て見ますよ。

好は不審乍ら立出てゝ戸口に來り、

何方ですか。

ヲ頼み申す、〱

立かけたる竹の棒を外づし、寄せ附たる踏臺を取除くれば、一早くも片外づしに引づらんとする、可弱き戸をガタ〱と開らくとき、

ヤ、お寒むう。

何方で‥‥チヤ青山さんが‥‥マアどうして此處へ入つして下すつた‥‥‥‥哲さん‥‥哲さん

呼べども哲孃の答へなし、

お寒う御座いましたらう、サお這入なさいまし。

どうも實に非道いですチー、チイ車屋こちらに這入つて休ませて貰へ。

漸やく長靴を脫し、チバーコートを脫ぎ、先づ一禮して火鉢の傍に立寄り、家内の樣子を一見するとき、好は早くも膳を臺所に出して既に竈に火を燒付んとす、此時彼方の障子をソ

ト開きて靜かに入り來るは、即はち哲彌なり。

コレハ〳〵よくお出下さいまして。

暫らく。

お母さんにも御壯健よう居つしやいまして。

ハイ丈夫で……アナタは如何ですか、モウ薩張なさいましたか。

有がたう御座います、先づ大抵は……

手紙を遣して呼出てたゞけ、立出るの事實は既に手紙の上に顯したれども、今更めて互を向へに復た之を繰返さねば相濟まざるの感あり、左ればとて既に一度心實を露にし顯したるを今た茲に再言するも可笑しく、言はざれば間が惡ろく、言へば餘りに罪が惡るく、左ればとて他に話すべき談しの差當り見當らねば、思はず口滑べりて、

お蔭さまでアに呼出てまして、定めしお嫂さんは……

イエ、何にも存に存じつて居りますし、寧ろ敬服して居りましたのですが、殊に先づ今日參りました用事を第一に申しませうが、

と云ひつゝ、懇しく〳〵一通の書翰を取出し、之を哲に渡して

今日又たお參たのですが、一寸と御覽なさい……そう云ふ譯で、明後日至急出頭せよと云ふとですが、實は最初私しから頼んで置いたともあるので、今に至り、行方が知れぬとも申されませんから、少し不本意でしたが、此方へ來ましたのです。

其はわざ〳〵有がたう御座います、

と輕ろく禮を述べ乍ら、好彌を呼び、彼の手紙を示せば、

矢張、本當でしたノ、今日も青山さん、時事新報にそう云ふとが出て居ましたが、餘り存外の事ですから、タッタ今お話しして笑つて居た所ろなんですよ。

そう〳〵出て居りましたナア、何しろ祝すべきとです。

青山も好彌も注意して共に哲を見れば、彼は首べを垂れて切りに案ずる如し、頷ひに一二の線を畫き、口元を例よりも倘ほ緊しくして、キット見張り居るなり、二人は哲が平生を知れば、今も強いて其の返答を促しもせず、只た沈默として打守れば、哲は漸やくにして首べを擧げたるが、常よりも一層に落附き拂つて、青山に向ひ、

アナタお官をお辭しなさつて、高等學院とか云ふ學校をお建なさると云ふのは、實際で御座いますか、

ハア、本當です。

夫では尚更らよく私しの申すとをお察しなさつて下さるでせうが、私しは實に此の名譽らしくは見へるが其の實効のない官に就きまするを好みませんが、然し之もアナタがお世話なさつて下すつたとすれば就いた方が、善のかも知れません、兎に角アナタが若しも私しの地位に居らしたらば何如なさいます乎。

六かしひ問題ですが、然し華族女學校の教頭と云へば隨分其の説を實行するとも出來、又た華族上流社會の婦人に教育を施くと云ふ面白ろひとも出來るのですから、他に何か大なる働らき場所の無い以上は、決して左樣に嫌ふべき地位だとは思ひません。

左樣に喜こぶべき地位ともお考がへなさらないでせう、私しもアナタが之迄でにお世話なさつて下さつたを實に有がたく謝しますが、何分其の命を受くるとはどうも好ましう存じませんですが。

ナル程。

好は殆んど喫驚したる顔附にて哲を打守り乍らも、平生萬事哲が言論に心服すれば之も亦大ひなる明理のあるとと信じ、未だ奇しみ乍らも且つ切りに感じ入つて、恰も此の覺悟あるを自身の名譽あるかの如くに面樣せり。

然しアナタの御厚意は實に謝します、特に初めから御周旋をなさつて下さつたのですから、私しがお斷わりをするのが反つてアナタに不利益を與ふるようでは成りませんから、何分明后日は私しが出頭しまして、其上で之を辭しまする理由を申しませう。

左樣ですか、少し殘念の樣に思ひまするともあるが、ソウ御决心あらば宜しひでせう、シテ既にお辭しなさるとあれば、茲にモ一つ私しが持つて參つたものが有ります、之を申上たい、

と言ひ乍ら、何やらん掛念して少しく口隱もりたり、好は立つて障子の彼方に入りぬ、車夫は火に温まりて快よく居眠る、燈は暗し、雪は落ちたり、四面沈々。

好が彼方より出で來るときは、室内不思議にも春の如し、剛と哲の手は確かに握手したり、其の顔ばせは輝やいて花の如し、祝涙眼とに掛り、紅頬温和として笑めり、

お好さん、私し供は爰に契約を致しました。

智慧を得る者はおのれの靈魂を愛す聰明をたもつ者は福祉を得ん。

佳傳

○法學大家アウステン氏夫人（第一）

左は明治女學校毎金曜日の講談會に於て余が演述したるものをかすみ生が筆記したる大畧也。

人の世に立つては、安んずべく、爲すべく、進むべき一定の天道あることにて、社會の總ての制度、一個人の總ての威力も皆な之に隨ふべき筈である。而して此の天道を心に示して心裏より人を制するを道德とし、之を公けに表はして社會より人を制するを法律とすることである。故に道學と法學とは窮局する所ろ一に歸し、出でゝ表裏に分るゝとは云へ、其の要する所ろは人をして成るべく正しく安んぜしめ、可成く正しく爲さしめ、成べく正しく進ましめんとするに在る。故に吾人は世の道學家法學家を見るときは、特に之を尊敬して均しく優待せんとするの思ひあることなるが、此頃法學の爲めに一生を犧牲にし、遂に其石礎を置きたるアウステン氏の傳を讀に及んで大ひに敬慕の念に禁へざりしが、氏と共に同行同伴したるサラアウステン夫人の事を思ひ合すに至つて、いよ〳〵以て今の女生諸君の爲めに望む所ろを切にしたり。

サラ、アウステン夫人の事を申す前には、極めて大畧にしても、先づ其良人アウステン氏の一生を叙べ置かねば成りませぬが、茲に今を距る凡そ三十年程以前に、英吉利の都ロンドンの近邊に於て死したる法學の大家ありて、名をジョン、アウステンと申しました。其一生を概評すれば、不遇、貧乏、困苦、落膽の間だに埋もれて、只だ其の公義純潔なる大理想を僅かに一卷の書に殘し、空しく路橋一片の烟と相成つたることであるが、然し其の煙は遂に滿天に立引きて、遂に今日の如くに法學を隆盛ならしむるの基礎となりしことである。扨てアウステン氏は、最初軍門に入つて、武官となりしが、後には代言人となり毎度法庭に出席はしたるものゝ、其の餘り綿密過る、正直過る、而して餘まり猾策のなさ過る所ろの此の學者には、迚も當時の代言人の如く花々しく事を爲すことを得ずして、失望の後ち之を止め空しく獨學し居られたるが、倫敦大學の出來たるとき之に聘せられて法學の教授と爲つた、然し之も亦た思はしからず、暫くして止めて其講義錄を世に出版せられたり、之れ即ち王氏法理學の第一版であるが、迚も賣はすまい、本屋の大損と爲らねば善がと、版元のモルレーへ心配した手紙を送られた程であつた。其後刑法編纂委員になり、又内法庭の講師と爲つたが、共に思わしくない、委員はぐづ〳〵として詰らぬと斗り仕て居つて、其上少しもアウステン氏の高說を用ひない、講義を聽くものは學問が足らずして、大抵はアウステン氏が議論を味はうことが出來ない、遂に氏は慷歎して、嗚呼吾は十二世紀の學生としてか、又は日耳曼の教授として生れたらば幸わひなりしならんと云つた、實に給金は一錢でも徒らに貰わない、托された義務は出來る丈け十分に盡す、爲し掛つた仕事には必らず全心を任せたいと云ふアウステン氏が氣象には、如此き境界は實に不愉快で堪へられぬことでありしと思われる。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

夫故へ、後には佛國のブーロンに渡り、一年半程住居したるうちに、地方廳の委任に由てモールタ島の副代官になつたが、之も不幸にして數年にて止めた。斯て佛蘭西日耳曼等に假寓して甚はだ貧苦に迫まられし折柄、彼の法理學の初版は全く賣切になりし旨にて、書肆より切りに第二版を迫まり、友人知己も屢ば之を促したるが、アウスチン氏は中々に承引せず、前版には不完全の所ろがあるから、之を改めてでなくては出版せぬと云つて再版を許さなかつた、其中佛國に一八四八年の革命が起つて、國内久しく亂れたから、アウスチン氏は遂に本國に歸り、倫敦に近きサルレーのエーブリッヂ村に貧しく暮らして、法理學再版の爲めに深く研究を致した。前々より固より其の用意はありしとなるが、此に至りてよりは全く其の研究に從事して、月に年に其の說を練りたるが、五年にして未だ安心が出來ず、八年にして未だ安心が出來ず、十二年にして尙ほ未だ安心が出來ず、遂に第二版の編輯を安心して成就し得ざる内に、原稿材料山の如くに積もつたる一室内に於て、遠焉として死去せられたとてある。

アウスチン氏六十の一生は、如此く不遇、貧乏、困苦、落膽に埋もれたるが、扨て其の尤も高尙なる學說は之を後代の人に訴へて是非の批評を乞ふべきか、然るときには王氏一生の大不幸も必らずや後の大榮譽の基ひとあるとてあるかも知れんが、何に致せ其の學說も未だ全く打ち立てられずして、彼の大學者の、大頭腦は、現世に材料を散亂して遺したるが如く、彼自身も亦た散亂して水土の原素に立返つた、が果してサラアウスチン夫人は之を其儘に無効に歸せしめた乎如何ん。

前號本欄内にリンダギルバート孃の肖像揭載致し既に印刷に附し候處印刷中銅版に破損を生じ候に付き不得止銅版を除き餘白を存し置き候號數も有之愛讀者諸君へ此段御斷り申上候也。」

寄書

本號も亦餘白に乏しく不得止此欄を省く

新報

（此欄内自由に轉載を許す）

○皇后陛下の御仁慈

皇后宮陛下には帝國大學醫院に入院患者の内下等室に居る者にして嚴寒の候に際し困難の向もこれあるやを御痛慮遊ばされ男女子供等の冬服三十六枚を同院へ下賜ありたり。

○佛敎及び神道

吾人は社界の道德の進捗せんことを熱望し、之が爲に宗敎の速かに隆盛とならんことを熱望し、又之が爲めに宗敎中の尤も高尙有力なる基督敎の隆盛とならんことを熱望す。然れども之が爲めに佛敎神道を見る吾人が眼こは決して冷淡ならず、啻に冷淡ならざる耳ならず、凡ての無宗敎者無道德敎家に對しては、吾人は如此き神佛耶三敎の人と共に協力傳道せんことを望み、併せて社界の害毒に對しては三敎共に合同熱勉せんことを欲す。於此乎吾人は佛敎界運動の近來に活潑なるを大賀して、而して神道界の極めて冷々たるを慨歎せざるを得ず。

○佛敎界の運動

其の主なるものを舉れば、女學に對しては

淸揚女學校　親和女學校　白蓮女學校　關西女學校　相愛女學校　高陽女學校

綜藝種智院　愛知女學校　積德女學校　女子文藝學舍の十一女學校と
婦人教會雜誌　婦人教育雜誌との二女流雜誌あり。其他普通の佛教主義雜誌類を擧れば
我行く道　同志會雜誌　淵源教會雜誌　法の雨　四明余霞　共潤會雜誌　日本佛教會講義錄　新世界　活人新論　令知會雜誌　日本國教大道叢誌　法話　能潤新報　通知會雜誌・奇日新報　教學論集　積善會雜誌・傳道會雜誌　亞細亞の寶珠　明教新誌　日蓮宗教報　日本之教學　反省會雜誌　文學世界　嶽南之青年
而して又た普通の佛教主義の學校を擧れば、
大谷教校　曹洞宗大學林　貧民學校　慈愍學校　廣濟學校　免囚保護會社　岡山感化院　東京高等普通學校　愛知普通學校　京都尋常中學校・金澤私立中學校　其他眞宗派に屬する二十校

○女性の小說家

近年に至り、女性にして小說を著はしたるは第一に中島湘煙女史が善惡之岐、第二が田邊龍子の藪の鶯なり。斯て此頃ろ都の花に出でたる許嫁の縁は札幌在住大島千代子作にて、來春金港堂に於て發兌せんとする小說の中に中島俊子が山間の名花、佐々木正子（佐々木弘綱氏の姪）が胸の思、同光子（弘綱氏の夫人）が赤子の一心、松の歎息、果敢なき埋火等あり。女性の小說家續々現はれんとす、願くはゼヲヂエリヲツトの如く道德の觀念高く、マダムデステールの如く自由の氣骨男ましく、ビーチエルストウの如く慈善の愛情温かなる小說家の多かれかしと祈る、分もなき少納言は實以て御免を蒙りたきもの也。

○高知縣知事の問

高知縣會に於ての一大快報は前號に錄したる如し、之に付き縣知事は二つの問を出し、一に密賣淫之より盛んとなり梅毒の害橫行せん之は人々の道德心に訴へて放任するより外方なきか、二つには妓樓を廢せしむる迄の年限を何如にするか、との事なり。第二問は固より其地方の事情に關す、第一問人々の道德心に放任す云々は實に不可也、吾人が每度申したる如く凡ろ妓樓を全廢する時は同時に密賣淫を取締まるの規則を極めて嚴重にせさる可らず。

○愛知縣立中學女子部の全廢（電報）

愛知縣會にては去る十八日縣立中學女子部案を全廢するとに最多數の賛成を以て議決せられたり而して其の理由は地方稅を以てするは無用にして一切私立學校に托すべしとのとなりと同縣會議員三枝光太郎氏より電報を以て報ぜられたり。

○函館女學校　今度函館區會にて決議になりし女學校は來春を期して創立する由なるが其の設立の趣旨を聞くに函館區內には外國人の設立せしもの二校あるも僅かに年少女子を就學せしむる位なれば此度區立女學校を新設して高等小學科に就學の女子及成年婦女に家政育兒等日用適切の教育を施さんとの目的なりと云ふ。

○佐賀婦人懇會　は客年設立以來每月同地の協和館に會合して專ら有益なる演說談話等をせらるゝ由又伊萬里町なる婦人協會にては育兒法家內經濟等を談話せらるゝと云ふ。

○雜報　江州大津小學校附屬幼稚園の開園式は去る九日に舉行せられ中井滋賀縣知事も臨園せられたる由○熊本の有志者は女子共立會なるものを設立して專ら女子教育に從事せらるゝ由○神戶婦人禁酒會にては去る十三日同地多聞教會堂に於て矯風演說を開かれたり○福島縣師範學校女子部にては去る十二日より單簡なる仕立の洋服を採用せり。

外報

（此の欄內自由に轉載を許す）

○倫敦の人民院　曩に倫敦の貧民町イーストエンドに建てたる人民院（ピープルス、パラス）は其の効益莫大なりとの評判を受るに至れり、每朝八時開院の時より職工は續々此所に來りて各國の新聞紙を見るを得べし、九時より夜に入る迄は圖書室を開ひて自由に展覽を許す、水曜土曜の兩夜は音樂會を催ふし常日には無代にて聽聞せしめ、其他は二錢づゝにて入場せしむる由なり、又た十二才以上の子供にして、其親が年千圓以上の收入なきものにのみ職業を教ゆるの規則あり、一週に二十五錢の月謝なるよし。

○シヤムの女子　今に蠻風多しと想像するシヤム國の女子は當今英國に留學するもの既に四名あり之は此頃留學生として他の十一名の男生と共に來りたるものなりと云ふ

○米國婦人禁酒會　同會の第十六紀年大會は千八百八十九年（明治二十二年）九月廿八日桑港に於て開會するとに決したり十月廿六日ニユーヨークの大會にて同會の支部を佛京巴里に置くとに決す十月廿二日の大會にて役員の更撰ありたりウヰラード孃は三百九十一の投票中三百六十の多票にて會頭に再撰せられカロインビイ、ブウエル夫人は通信書記にマリイ、エ、ウツドブリツヂ夫人は記錄書記にイスター、ポウ孃は三百八十三の投票中三百六十五の多票にて會計長にエル、エムエヌ、ステヴエンス夫人は記錄副書記に更撰せられたり。

○佛國婦人の政黨　佛國のパリス伯爵夫人は此の度一の政黨を組織せられたる由なるが其の黨章には薔薇花を用ゐらるゝと云ふ。

●出版書目　先月中官報を以て廣告せられたる書籍の中にて女學に關するものを擧ぐれば左の如し

婦女の教育	三冊	著作者 發行者	濱本[illegible]太郎 二宮彥一郎	東京
產婆學卷之二	一冊	編譯兼發行者	榊順次郎	東京
日課念佛士女訓	一冊	著作者 發行者	念海和尚 金井秀道	長野

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

繪入枕の草紙	一冊	編輯兼發行者	田村磯吉	東京
姙婦心得草	一冊	著作兼發行者	小倉規矩 鈴木功	愛知
男子女子	一冊	飜譯者 發行者	河野政喜 栗本長七	東京
女用消息文	二冊	著作者 發行者	大野定子 小林新兵衛	東京
政治小說 今世之佳人	一冊	著作者 發行者	鈴木五郎 中村芳松	大坂
櫻井氏產婆手術書	一冊	著作者 發行者	楠田謙藏 鈴木義宗	東京
貞婦之鑑神日本	一冊	編輯兼發行者	山崎果平	東京
本居籐子刀自畧傳	一冊	編輯兼發行者	本居豐穎	東京
婦女實業案内	一冊	著作者 發行者	佐久間孝 大倉保五郎	東京
通俗女子敎育要論	一冊	著作兼發行者	魚谷歡次	兵庫
男女快樂之秘訣	一冊	著作兼發行者	河野伊四郎	大坂
家中經濟 貯金之秘術	一冊	發行者	新堀孝次郎	東京

小供談

○正直ある小娘（其四）

ヘッチーは正直に答へて申しますのに、從兄の申しますには河の邊に船を置いてあるから其處へ逃げやうと思ふがお前は兵隊に出會つて私しハ街道の方へ行つたと言ふて呉れへと申しました。

さうですかヘッチーさん、アナタは實に善いお兒です、アナタは實に眞とを仰しやるです定めしアナタは嘘言は吐かれませんと仰やつたでせうが、其時彼の方は何んと言われました乎。

申しますには夫ではお前は私を敵に賣して私しを殺ろさせようとするのだらうと。

ソコデあなたは大方仰しやつたでせうたとへワタシハ其が爲めに殺ろされても決して申しませんと、そう仰しやつたでせう。

ハイさうですと（云ふや否や兩眼よりハラ〳〵と涙だを落したり）。

實に大膽お語です、スルト彼の方はアナタにお禮を言つて、而して出來る丈け早く此の道を走しつて行たでせう。

私しはどの道へ逃げたと云ふことを申すまいと約束しましたから夫は申されません。

ヘッチー左樣でした〳〵全く私しが忘れたのです、成程アナタの事ですから夫はどうしても仰しやいますまい、然しどうかそれでは彼の方が言ふた一番最後の語ば丈けを話して下さい、而したらもう別に決して問ひませんから其の一番後に言ふた語ば丈けを敎へて下さい。

牧師 今井壽道氏講述
傳道師 山田茂三郎君筆記

教理一夕話

右ハ洗禮晩餐禮其他婚姻埋葬教育等ノ事ニ就キ簡易ニ講述シタル良書ナリ諸兄姉愛讀アレ

全一冊百四十五ペーヂ 壹冊二十錢 拾冊二圓五拾錢

發行所 芝區愛宕町三丁目一番地 **東京雜書館假局**

大賣捌所 麻布區飯倉四ツ辻六丁目十七番地 **池田書店**

京橋區銀座三丁目 **十字屋書店**

東京經濟雜誌

每土曜日發兌

第四百四十九號目錄

官令ノ數件●社説ノ清酒特別税○日本ノ鐵道企業○青年ノ將來ノ困難●論説 地租輕減ノ議內閣ニ再燃セリ●(帝國)開始末ノ批評ニ關スル島田三郎氏ノ書翰●(雜錄)福岡博多及德島ノ市制○臨時東京府區部會○有油蒸氣機關○佛國シンジケート一年開ノ動作○橫濱生糸ノ取引活潑ナリ○雜誌熱○其他數件●金融及商業之景況)數件●●●定價一冊金七錢○十冊前金六十五錢○半年分前金壹圓五十六錢○一年分貳圓八十六錢○府外ハ一冊ニ付郵税一錢宛增

東京々橋區彌左衛門町七番地
經濟雜誌社

●女學雜誌を初め 諸新聞各雜誌の廣告東京も地方も精々御便利に取扱申候○廣告料一覽表御入用の御方は郵券二錢御投與のこと

神田區小川町一番地
洋々社

速記彙報

每月一回發行 第一冊 十二月二十日發行

●正價郵税共前金一部六錢、六部三十四錢

●目次●速記術と文明との關係●宇川盛三郎君●萬國速記大會開會式ロースベリー伯の演説●衆議院議事筆記●市町村會●內閣官報局速記法の沿革●伊藤伯演説の筆記●日本第一ノ速記者ニ望ム●小學生徒製作品展覽會●ベルリン府の速記協會●言語取調所設立ノ概言●速記彙報ノ評判●速記術講義 林茂淳氏講述

●附錄 十七年間七曜日便覽表

●速記彙報ハ自今毎月一回發行スルコト定メタリ

東京神田區裏神保町壹番地
速記彙報發行所

大賣捌 東京神田裏神保町 敬業社

新潟縣書記官近藤幸止君題字
同縣中頸城郡書記大嶋琢郎君校閲
東京盛門學校長小泉秀快君編輯

新撰 町村役場簿記軌範

上卷 正價卅五錢
下卷 近刻

本書ハ法律第一號御達町村制度ニ基キ町村役場出納簿記ヲ復式法ニ編纂セシモノニシテ科目豫算ニ至ル迄廿二年四月後實施ノ例題(上卷一週年度)解式(下卷日記原簿ヨリ數冊ノ補助簿)等悉ク之レカ實地記入式ヲ示シ未タ簿記ノ何タルヲ知ラサルモノト雖モ容易ニ解スルヲ得ヘク世ノ官衙會計ニ從事スル士ハ勿論苟モ該役場計算ヲ司ルモノ此書ニ依ラハ實地ノ賬簿上一口ノ下ニ瞭然タルコ近來稀有ノ良書也

但シ本月ヨリ向フ六十日間特別廉價三十錢外ニ郵税十八錢送附次第直ニ送本ス

明治廿一年十二月十日

文部省獨逸協會學校成城學校六合館出版圖書大賣捌所
東京神田雉子町
團々社書店

全一冊(小形百六十余ページ)美本　定價拾錢　郵稅六錢

新刊

婦人及び家政

本書目錄

日本婦人論
第一　火を以て火を救ひ水を以て水を防ぐ……
第二　精神的の修養……
第三　婦人の世界は心配の世界なり……
家政改良論……金森通倫
子婦は舅姑と別居す可し……植木枝盛
社交上に於る婦人の勢力……
婦人改良の一策……中江篤介
賣婬公許の事……植木枝盛

右は國民之友の紙上に於て好評を得たる婦人に關する論說にして加ふるに製本極て美麗なれば歲暮年頭又はクリストマスの進物には尤も適當なる者あり江湖の諸君幸に陸續御購求あらんことを

發賣所　東京京橋區日吉町二十番地　民友社

關輪正路纂著○木村熊二田口卯吉兩君序

女子必携　今世ひめ鑑　全一冊　賣價四十五錢　郵稅八錢

右は先きに本社に於て出版いたし候ものにて凡そ當世婦女子の心得べき承知すべき質問すべき箇條は大抵記載し有之候蓋し古の「ひめ鑑」の重寶なりしとを御存知の方々は此開化したる當世のひめ鑑も亦同樣に助けあるとを想像し給ふべし而して此の如く便利にして有益なる書物はクリスマス及び歲暮年玉等の贈物に用ゐて尤も妙なるべし

京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

明治二十一年十二月二十日印刷
明治二十一年十二月廿二日出版

發行所　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

編輯兼發行者　東京京橋區日吉町八番地寄留　巖本善治

印刷者　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豐

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY